

日 時 令和2年2月18日（火）
14:00～15:00
場 所 岐阜市教育研究所 中舎4階大会議室
出席者 計 92名（別紙名簿参照）

○検討テーマ・・・「障がい児支援と学校との連携について」

障がい児の支援において教育と福祉の連携は不可欠であり、一層の連携が求められている。昨年に引き続き、岐阜市教育委員会学校指導課と岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”と共同で、岐阜市内の小・中学校の特別支援コーディネーター研修の一環として開催した。小・中学校と放課後等デイサービス事業所（以下事業所）が連携して支援している事例を共有し、現状やどのように連携するとよいのかを意見交流を通じて検討した。

【1. 学校と放課後等デイサービス事業所との連携事例について】

<事業所より>

・引き渡し時、担任の先生と事業所で、児や家庭状況等情報共有した。先生から指導のポイントなどメモ書きをもらい、事業所で支援を継続。できるようになったことを学校でも行うよう、先生とも一緒に約束した。褒められることが増え、落ち着いて生活している。

<学校より>

・事業所から話があり、夏休み前に会議を開催。事業所の支援計画を見た。教育支援計画は保護者の同意を得て、事業所に見せる等した。夏休みに事業所へ出向いて、児の様子を把握。学校が事業所で把握したことを保護者に伝えたことで、保護者は安心感を得られた様子だった。その後も学校と事業所とで情報共有している。情報共有することで同じ方向を向いて支援をしていける。今後もできるとよい。

【2. 意見交流（グループワーク）】

少人数のグループに分かれ、岐阜市内の中学校・小学校・市立幼稚園、事業所それぞれの立場から支援の現状と課題、および今後の支援の連携のために取り組めることについて意見交流を実施。

- ・引き渡し時、関わる事業所も多く、学校全体について把握しにくい。
- ・学校や事業所の予定変更について、お互いすぐに情報共有しにくい。
- ・保護者同意のもと、教育支援計画や個別支援計画を定期的に共有したい。
- ・学校、事業所、家庭で情報共有等行い、連携して支援したい。（学校や事業所で配布するプリントの交換。学校や事業所が保護者とやり取りしている連絡帳の活用。）
- ・授業参観や事業所見学ができるとよい。
- ・会議を開催し、児にとってよりよい支援について検討できるとよい。

【まとめ】

学校と事業所の支援内容や現状の課題について情報共有した。児や保護者へのよりよい支援についての思いを共有し、連携して支援していく必要性について話し合い、今後の具体的な支援についても検討できた。

学校と事業所から「他の学校の取り組みを知ることができた。」「事業所の具体的な支援内容を知ることが児や保護者への支援につながり、とても有用であった。」「学校は忙しそうと遠慮していたが、もっと働きかけをしたい。」「支援計画を定期的に交流したい。」「学校や事業所に出向いてみたい。」という前向きな意見交換ができた。

家庭・教育・福祉で連携し、継続的に検討していく必要があるという認識は同じであり、このような場を継続する希望の声が多かった。関係機関の連携を強化し、今後の支援に生かすとともに、切れ目のない支援体制を整えていきたい。

【アンケート結果】

① 会議の感想

よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった
57	19	2	0

② 学校と事業所の連携について

必要	まあまあ必要	あまり必要でない	不必要
67	11	1	0

③ 次年度も開催したいか

開催したい	どちらでもよい	開催しなくてよい
54	21	1

【当日の様子】

